

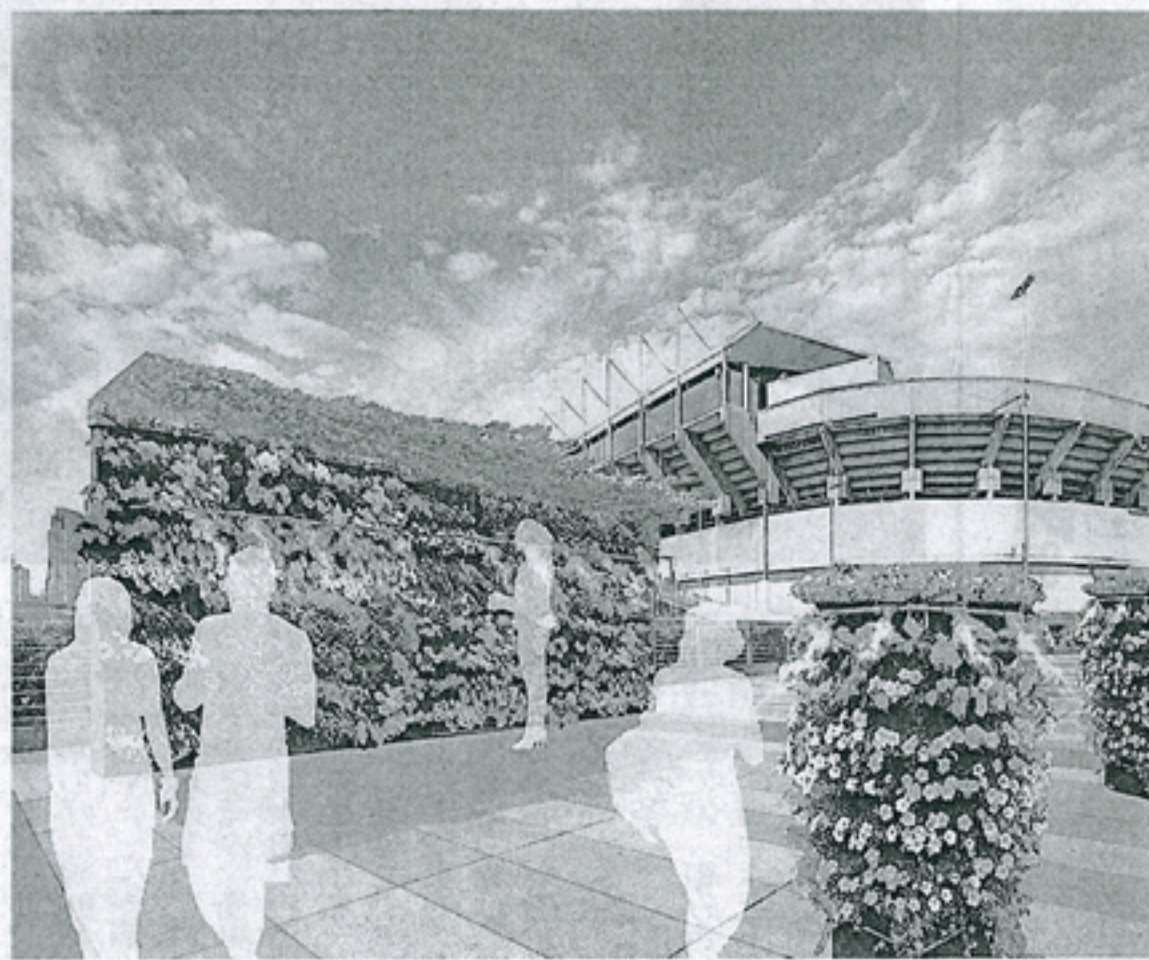
葛飾の技で五輪冷やせ

高校や町工場 開発中

ロボ花壇がミスト噴射

葛飾区内の高校や町工場が製作した自動水やり機能付きのロボット花壇に、ミスト噴射装置を追加した新型機の開発が進んでいる。7月に完成する予定で、区は、花による「おもてなし」と熱中症対策に役立つとして、2020年東京五輪・パラリンピックの競技会場周辺への設置を都に打診している。

会場設置都に打診



ミスト機能付きフラワーキャンパス（左奥）とフラワーメリーゴーランドのイメージ（葛飾区提供）

ロボット花壇は、高さ約1・9メートル、直径90センチの円柱形の360度回転する可動式花壇。側面が花104株のポットで覆われていて、太陽光発電でポンプを動かす、内側の大型タンクから自動で水やりをする。

区や都立農産高校、町工場などが「街を花いっぱいにするプロジェクトチーム」を組み、16年度に開発を開始。「フラワーメリーゴーランド」と名付け、区内の公共施設や企業に約50台を設置したほか、調布市の「味の素スタジアム」周辺など、区外でも6台が利用されている。

チームは昨年、暑さ対策に役立つ新型機の開発に着

手。農産高校の生徒らが暑さや風に強く、連続して花を咲かせる品種を探し、「ペチュニア」の一種を選んだ。当初はロボット花壇の下部に、路面に水をまく「打ち水機能」を付けた。しかし、大量の水が必要だったことなどから断念したという。

その後、涼しさを体感できるミスト噴射装置の取り付けを検討。浴びてもぬれないミストを作り出す技術を持った「パナソニック」の協力を得て試作機を製作し、5月30日に公表した。

7月中旬の完成を見込んでおり、1号機は区役所に設置する。パネル型で、同様のミスト噴射装置を付けた花壇「フラワーキャンパス」の開発も進めている。

区は、今年夏に各地で行われる東京五輪・パラリン



ミスト機能が追加されたロボット花壇